

組()

春はあけぼの。
やうやう白くなりゆく、山ぎは少しあかりて、
紫だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。

月のころはさらなり。
やみもなほ、螢の多く飛びちがひたる。
また、ただ一つ二つなど、ほのかに
うち光りて行くもをかし。
雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。

夕日のとして山の端いと近うなりたるに、
鳥の寝所へ行くとて、
三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへ
あはれなり。
まいて雁などの連ねたるが、
いと小さく見ゆるは、いとをかし。
日入り果てて、風の音、虫の音など、
はた言ふべきにあらず。

冬はつとめて。

雪の降りたるは、言ふべきにもあらず、
霜の白きも、またさらでも、
いと寒きに、火など急ぎおこして、
炭もて渡るも、いとつきづきし。
昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、
火桶の火も白き灰がちになりてわろし。

春は夜明けが()
空がだんだん白くなつていくうちに、山ぎわの空が少し明るくなり、
紫色になつた雲が細くたなびいているのがいい。

夏は夜が()

月が出ている夜はもちろんいい。
やみ夜でも、螢がたくさんとびかつているのはすてきだ。
また、ほんの一匹二匹がほんのりかすかに
光つてとんでいるのも味わいがあつていい。
雨の日もまた味わい深い。

秋は夕ぐれどきが()

夕日が赤くさして山のりよう線にしずもうというところに、
カラスがねぐらに帰ろうと
三羽四羽、二羽三羽とまとまつて急いでとんでいくのも
しみじみしてていい。
まして、かりなどが列を連ねてとぶすがたが、
遠くに小さくみえるのも、とてもすてきだ。
すつかり日が落ちて、風の音や虫の音などが聞こえるのも、
言うまでもなくいい。

冬は早朝が()

雪がふつてているのは、もちろんいいし、
しもが真つ白におりているのもいいし、そうでなくとも、
とても寒い朝に、急いで火をおこして、
炭火を持ち歩くすがたも、冬の朝の風景にふさわしい。
昼になつて、寒さがゆるんでくると、
火だけの炭火も白い灰のほうが多くなつて、みつともない。

○日本語の教科書を見ながら、音読しましよう。(二回)

○()には、どんな言葉が入るでしょう。

○あなたが一番気に入っている季節や時間をしようかいしましょう。